

# 平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業名	子ども専用いじめホットライン相談事業			会計	款	項目	大専	小専
政策	03	3節 学び、受け継がれ、進展する流山（教育・文化の充実向上）		主管課	指導課			
施策	3-2	個性を生かす教育環境の基盤充実		主管課長	西村 淳			

## I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	流山市内の児童生徒	意図	いじめや、辛いこと困ったことがあったら、児童・生徒自身がいつでも安心して電話相談ができ、問題の克服に、向かえるようにする。
事業内容	生涯学習センター内の教育研究企画室の専用電話で、「流山子ども専用いじめホットライン相談員」がいじめ問題等に悩む児童・生徒からの相談に応じ、支援やアドバイスを行う。			
事業開始から現在までの状況変化	平成19年1月から事業を開業した。市内の小・中学校には、いじめアンケートの時期に合わせて、「流山子ども専用いじめホットライン」カードを全児童・生徒に配布している。また、市内の小・中学校や公民館、児童館等にポスターを配布し、子ども専用電話相談があることを周知している。平成30年11月より「いじめ報告・相談アプリ」を導入し、今までよりも相談や報告がしやすい環境を整備した。			

## II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
	①	「子ども専用いじめホットライン」の相談件数	19	25	14	件	
②	「いじめ報告・相談アプリ」相談件数			19	件		相談件数
③	「いじめアンケート」調査の結果 小学校	99.90	93.10	85.20	%	↑↑↑	認知件数÷解消件数
④	「いじめアンケート」調査の結果 中学校	99.40	84.20	82.20	%	↑↑↑	認知件数÷解消件数
⑤							
⑥							

  

指標で表すことができない定性的な成果	目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）		
事務事業のコスト	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事務事業の総コスト(a=b+c)	3,905,920	3,868,054	5,313,458
事業費(b)(円)	3,905,920	3,868,054	5,313,458
うち一般財源	3,905,920	3,868,054	5,313,458
職員給与と費(c)(円)			
人役・職員(人)			
人役・再任用(人)			
人役・臨職(人)			
人役・嘱託(人)			
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）			
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）			

子ども専用電話相談の存在を知らせるため市内の全児童・生徒に「流山子ども専用いじめホットライン」カードを配布している。また、学校や公民館、児童館等に、デザインを新しくしたポスターを配布し、子ども専用電話相談があることを周知している。  
相談の受付は、曜日に関係なく365日行っている。相談内容については、毎月のホットライン会議で、情報交換を行っている。  
アプリでの相談件数は、導入から5ヶ月で、中学生の年間電話相談数の6.3倍であった。

## III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

### (1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	I 拡 充 （事業を拡大して継続すべき）					

### (2) 事務事業の業務改善について

①H30当初の改善計画(Plan)	子どもたちの命に係わる重要な事業なので、学校と連携しやすい環境を整えていく。	③取組における課題(Check)	アプリダウンロード数の増加と、相談しやすい環境を整備していくこと。
②H30に実施した取組(Do)	「いじめ報告・相談アプリ」の導入により、子どもたちがより相談しやすい環境を整備した。	④課題に対する今後(H31~)の改善計画(Action)	子ども命に係わる重要な事業なので、学校と連携し、利用について周知や活用を促進していく。